

平成24年度教育委員会事務点検評価(平成23年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

整理番号 29

事務事業の名称	地域子ども教室推進事業		担当部課	教育委員会 生涯学習部 社会教育課	
			電話番号	04 - 2953 - 1111 内線 5671	
実施期間	平成 19 年度 ~				
総合振興計画における位置づけ	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施根拠	社会教育法	
	2節	学校教育の充実			
	施策46	地域と連携した教育の推進	個別計画の名称	次世代育成支援計画	
事業区分	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 法定受託事務+自治事務				
事業開始の背景等	家庭や地域の教育力が低下するなど子どもを取り巻く環境が変化の中で、子どもたちに安全・安心な居場所を確保するため、平成19年度から市の事業として実施している。				

2 事務事業の目的・内容

目的	地域の大人の協力を得て、子どもたちに安全・安心な活動拠点を提供し、多様な活動や交流の機会を与えることにより、地域社会の中で子どもたちが健やかに育つ環境を醸成するとともに、地域の教育力の向上に資する。	
対象	主に小学生	
活動内容	放課後や週末に小学校の余裕教室や公民館等を活用し、地域の大人の協力により子どもたちに多様な活動や交流の機会を提供した。また、連絡会Tieを通じてスタッフの交流・情報交換を行うなど、運営体制の強化に努めている。	
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)	継続
環境配慮	参加者及びスタッフに対して、自動車使用の自粛やゴミの持ち帰り等呼びかけている。また、子ども達にとって環境学習となるプログラムを取り入れている。	
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()	

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	目標値の根拠・考え方
(実施状況指標)	子ども教室の対象となる小学校区数	目標値	小学校区	17	16	15	15	全ての小学校区に教室を開設する
		実績値		15	14	11		
		達成率		88.2%	87.5%	73.3%		
		目標値						
(成果指標)	参加延べ人数(児童数)	目標値	人	6,300.0	6,400.0	7,400.0	6,300.0	対前年比2%増
		実績値		6,266.0	7,223.0	6,086.0		
		達成率		99.5%	112.9%	82.2%		
		目標値						
		実績値						
		達成率						

4 事業費

区分		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	
経費	直接費	予算額	千円	2,219	2,343	2,360	2,360
		決算額	千円	2,229	2,312	2,329	
	財源内訳	国県支出金	千円	1,360	1,426	1,426	
		その他特定財源	千円				
		一般財源	千円	869	886	903	
	人件費	従事職員数	人	0.20	0.15	0.15	
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	1,839	1,349	1,351	
事業費計(直接費決算額+人件費)		千円	4,068	3,661	3,680		
効率性指標	指標名	教室参加児童延べ人数	人	6,266	7,223	6,086	※1単位当たりの経費
	単位コスト	参加児童1人あたりの経費	円	649	507	605	

5 事務事業の評価

◆第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	5 前年度	子どもを取り巻く環境が変化の中で、子どもたちに安全・安心な居場所を確保することについて、保護者からのニーズは高い。地域の教育力の活用という点でも必要性が高い。
		5	
	有効性	4 前年度	学校統廃合に伴う教室数の減少、及び事業を実施しない教室の影響から参加児童数が減少した。しかし、事業に参加した児童や保護者からは好評を得ている。また、地域の大人との交流を通じて子どもたちの健全育成が図られるとともに、地域の教育力向上にも寄与している。但し、市内全域への拡大に向けては、事業の更なる周知とより多くの協力者が必要である。
効率性	4 前年度	4	事業については、市から委嘱されたコーディネーター2名が、各教室の指導と調整を行っている。各教室は市からの委託金により運営されているが、地域のボランティアの協力により限られた経費の中でも活発な運営がなされている。
	4		
<5段階評価> 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了		
	国の放課後子ども教室事業を活用し、既設教室の活動を引き続き支援するとともに、未設置地域への拡大を図っていく。また、人材の育成及び新たな協力者を得るため、コーディネーターを中心に連絡会Tieの取組(スタッフ交流や周知宣伝活動)を支援する。		

6 その他(学識経験者の意見等)

学校支援ボランティア同様、地域の教育力が確認される事業でもある。また、ある程度の「仕組み」がないと、運営が立ちいかななくなると考えられる。また、どれだけボランティアのかかわりを得られるかがポイントであると考えられる。学校支援の一つとしてボランティア養成を行うことや、他の人材養成事業等との関連を持たせて、市民参加が得られるような事業として進めることが望ましいと思われる。